

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。webギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
 年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
 ※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

●製品・修理に関するお問い合わせは、東京サービスセンターへご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 東京サービスセンターショールームにはマミヤ全機種を展示しています。
- 実際に製品を手にとって操作性や質量感を確かめられます。また、選定のアドバイス、操作上の疑問にもお答えしています。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

東京サービスセンター
 〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
 TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991
 営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイティブ内
 TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
 E-mail :info@mamiya-club.com

- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合わせを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

●株式会社ワイズクリエイティブでは、下記のような業務を行っています。

- ◎マミヤカメラ製品・大中判カメラ販売を致しています。
- ◎撮影アクセサリ、ザックの販売を致しています。
- ◎プロラボ現像・プリントを承ります。
- ◎撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

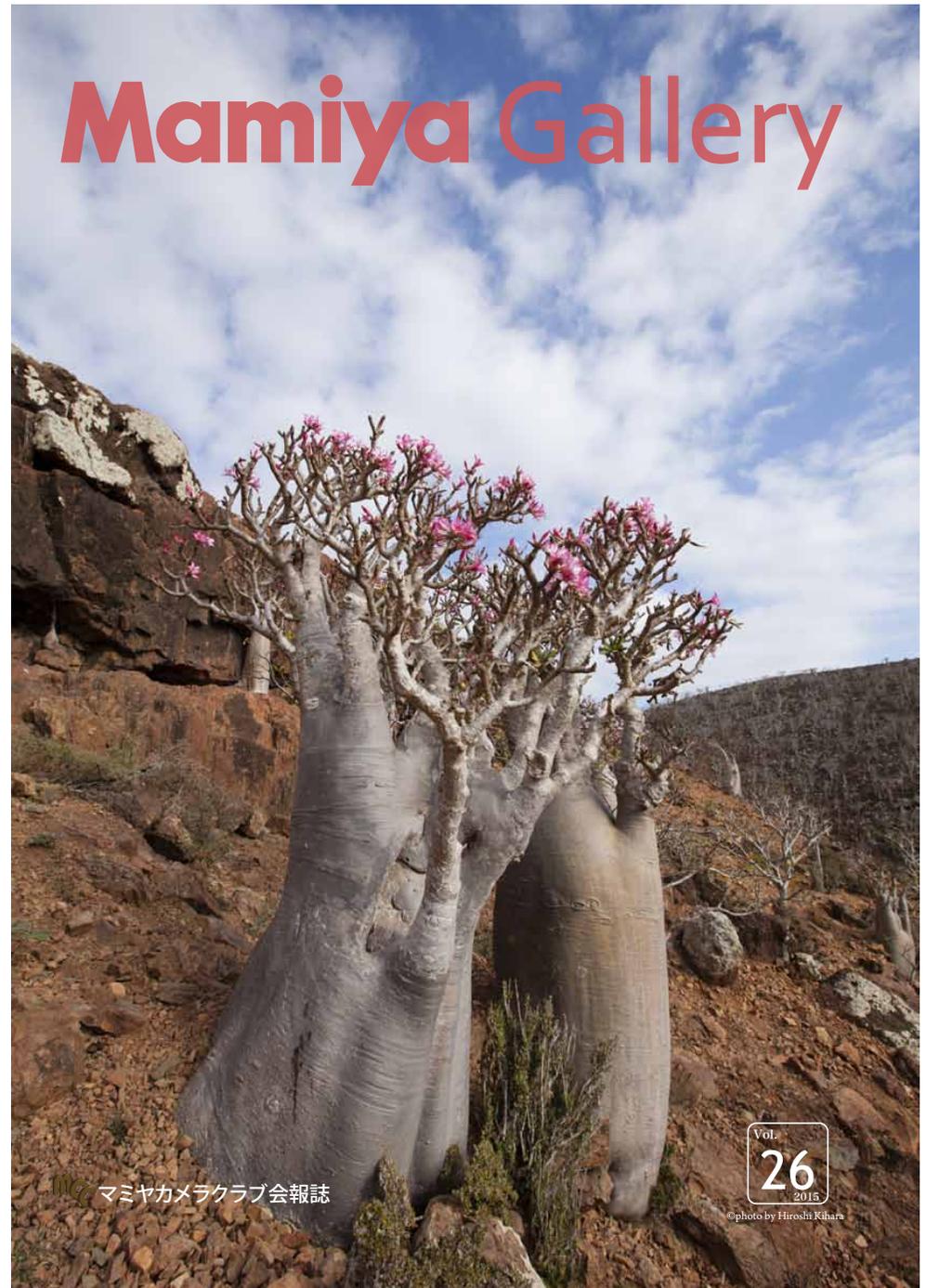
ワイズクリエイティブは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。

大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。

www.yscreate.co.jp



Mamiya Gallery



マミヤカメラクラブ会報誌

Vol. 26
2015

©photo by Hiroshi Kihara



超大作「世界植物記」出版 植物写真家・ 木原 浩さんに迫る

今号の巻頭企画は植物写真の第一人者として40年以上活躍され、今年3月に取材年数20年を掛けた大作「世界植物記《アフリカ・南アメリカ編》」を出版される木原 浩さんにスポットを当ててみました。取材当日、高円寺の閑静な住宅街の一角に在る木原写真事務所を訪ねると木原浩さんが笑顔で迎えてくれました。事務所内はとても広く、大きなガラス越しに庭木が見えてまるで自然の中に居る様でもあります。きれいに整理整頓され、じっくりと仕事に集中できそうな環境が羨ましい限りです。出版予定の「世界植物記」のお話や何故写真家の道に進んだのかなどをお訊ねしました。
(木戸)

Q. 写真との出会いは？

もともと写真ではなく野外遊びが大好きで、高校の時は山岳部に所属していました。大学も写真とは関係ない学部でした。ただ大学に行っても自然の中や野原で過ごしたいという自然志向が強くなったところで、丁度、写真家の白川義員さんがヒマラヤ遠征隊のアシスタントを募集している事を叔父の情報で知り、これかと思って大学を中退し、ヒマラヤに半年間行って来ました。その時は、写真には一切興味なくて撮影もしていませんでした。元々、白川義員さんも山やでしたから、山登りも岩登りも出来る私を写真では無くても山のアシスタントとして雇った事になりますね。この半年間の取材でも写真の細かいことは習得出来ませんでしたが、「写真家はこうあるべきだ」と言うような精神面は勉強になりましたね。「これだけやらなければダメだ」と言って、丸2ヶ月山の中に閉じこもっていたこともあり、その執念とパワーが凄くて感嘆しました。

その後、やはり叔父の紹介で植物写真家の富成忠夫さんのアシスタントを務める事になりました。アシスタントになった動機は、相変わらず会社員みたいな仕事で野外で出来る仕事をしたいの気持ちからでした。そして、この富成忠夫さんからマンツーマンで写真の事を教わったのが写真家への第一歩だったのです。また当時は、植物写真家と言えば富成忠夫さん一人でしたから、メチャクチャ忙しく日本全国をロケで飛び回っていました。富成忠夫さんの教え方が上手い事もあって、このアシスタント生活の6年間で植物写真の撮影はマスターしたと思っています。もちろん写真の事だけでなく植物のことも良く勉強しました。

独立前にも富成忠夫さんから「あれ撮って来て。これ撮って来て。」と言われ、一人で仕事をこなしていたので半分独立している様でありましたね。また独立前から「野外ハンドブック1山菜」と言う本を山と渓谷社から出版する事も決まっていた。因みに、この初めて出版した本の編集担当が、今回出版する「世界植物記」の担当と同一人物、退社後、フリーになっていたのをお願いしました。同年ですが面白い縁ですね。



木原 浩 (きはら ひろし)

1947年 東京に生まれる。1969年 大学中退後、山岳写真家白川義員氏の助手として半年間ヒマラヤに同行。1970年 植物写真家の故・富成忠夫氏の助手になる。1976年 山と渓谷社より「野外ハンドブック1山菜」(共著)出版を契機に独立。以後 野生植物を中心に撮影、図鑑をはじめとする本、雑誌、カレンダー、切手など多彩な仕事で今日に至る。最近は海外の植物に興味を持ち年数回海外での撮影を行っている。木原浩写真事務所主宰。

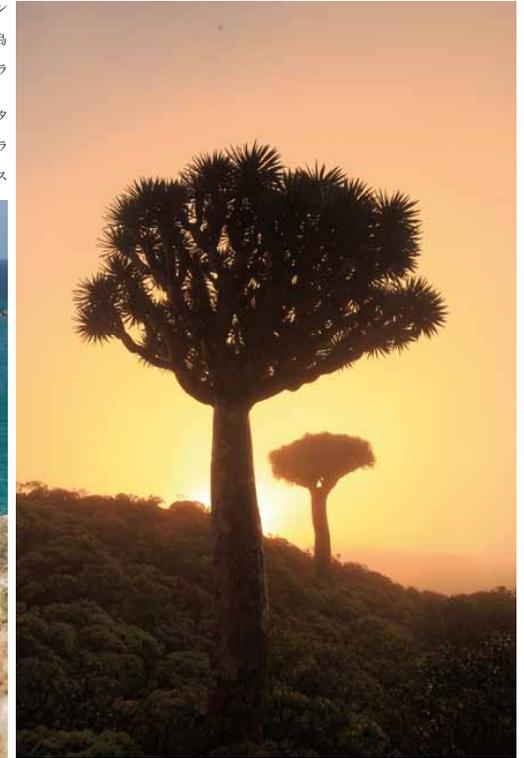
《写真展》1989年 新宿ペンタックスギャラリーにて4人展 1993年 新宿ペンタックスギャラリーにて写真展「尾瀬」、1999年 新宿ペンタックスギャラリーにて写真展「草木花歳時記」

《著書》白馬岳のお花畑、尾瀬の花、フィールドブックス5山菜、フィールドブックス7高山植物、尾瀬、山の花 100選、ヤマケイポケットガイド野の花、ヤマケイポケットガイド山の花(山と渓谷社)植物写真マニュアル(東海大学出版会)樹木の観察図鑑1、樹木の観察図鑑2(信成社)ペリーハンドブック(文一総合出版)

《共著(写真担当)》野外ハンドブック1山菜、野外ハンドブック8高山植物、フィールド百科山の花1、フィールド百科山の花2、山の幸、海の幸、日本の野草、日本の樹木、日本の高山植物、日本のきのこ、日本の桜、山の植物誌、海の幸山の幸、高山に咲く花、新日本の桜(山と渓谷社)、野草手帖秋、野草手帖春、キノコ手帖、薬草手帖上、薬草手帖下、身近な薬用植物(平凡社)フィールド図鑑高山植物(東海大学出版会)草木の本(光琳社出版)草木花歳時記秋、草木花歳時記春、草木花歳時記夏、草木花歳時記冬、草木花歳時記秋上・下、冬、春上・下、夏上・下、拾遺百花園(文庫)(朝日新聞社)他多数



表1 アデニウム・オベスム・ソコトラスム(キョウチクトウ科) イエメン
ソコトラ島ホムヒル南
3ページ 左:Edithcolea grandis(ガガイモ科) イエメンソコトラ島
ホムヒル
右上:ドラゴンツリー(竜血樹)(リュウゼツラン科) イエメンソコトラ
島ホムヒル
右中:エウリオプス・アラビクス(キク科) イエメンソコトラ島スカンド
右下:リモニウム・ソコトラスム(イソマツ科) イエメンソコトラ島アバ
ロ海岸
4ページ 左:デンドロシキオス・ソコトラナ(ウリ科) イエメンソコトラ
島ハディーボ付近
右:ドラゴンツリー(竜血樹)(リュウゼツラン科) イエメンソコトラ島
スカンド



Q. 初めてのカメラは?

富成忠夫さんのアシスタントの時に初めて入手したのがミノルタでしたが、その後ニコンに移行しました。独立時に富成忠夫さんからハッセルを給料一ヶ月分と言う信じられない金額で分けて頂きましたが、これで撮影した作品が編集者の評価が高かったのを覚えています。

Q. 植物写真家について?

植物写真は動物写真や昆虫写真などと比べ難しい分野だと思います。それはどこにでも在り、誰にでも撮影できる環境にある、何でもない植物を絵にしなくてはならないからです。確かに自然の中に埋没している地味な野草を如何に絵にするかは大変な作業です。また、撮影した写真が現物の植物とイコールで結ばれなければなりません。大きさが分からなかったり、かけ離れたモノになったりでは植物写真と言えないでしょう。

撮影する上でも「これを撮りたい!」と思ったら、下調べも大変で場所や季節の選定、そしてそのまわりの環境まで調べる必要があります。日本に関しては全国殆どの場所を取材していますが、良く聞かれる総カット数は残念ながら把握していません。また、撮影時にこの写真は作品として写真集に使えそうだとか、カレンダー・広告写真用だな等と意識してシャッターを切ることもあります。

植物写真家と言うと、植物の写真以外撮れないと思う人が多い様ですが、これを何とかしたいと言う気持ちはあります。私自身も山岳写真や風景写真も撮影しますね。(尾瀬の写真集も出版しています) 試みとしては植物の周辺の風景を絡めた作品も撮りたいと思います。

Q. フィルムカメラとデジタルカメラについて?

デジタルカメラはフルサイズのキヤノン 5D が出た時から導入しました。RAW データを自分で現像して TIFF で入稿しましたが、最初のうちは上がった印刷がろくなモノではなかったですね。フィルムは現像所に任せれば良かったのですが、デジタルになり時間を掛けて苦勞して TIFF データにしても、ちゃんと印刷に反映されない問題が続いたので2~3年は作品として使えなかったですね。ところがその内に週めくりカレンダーの 50 数作品の中に 10 枚デジタルを入れてみると、その差がほとんどわからなくなり「何とか行ける!」と思い、2008 年のバタゴニア取材の時に発売されたばかりのキヤノン 5D マークII を購入しこのカメラ一台で取材を敢行しました。

デジタルカメラにして先ず変わった事は、今まで一つの取材で 200 本以上持って行っていたフィルムがコンパクトディスク数枚で済む様になった事です。その反面、撮影後は現像所任せだったものが、自分でパソコンに向かい RAW 現像処理しなくてはならなくなった事です。

実際の撮影でも、フィルムとは違い、朝・夕・雨等の時の色温度の問題も気にしなくなりましたし、高感度撮影も有利になったので夜の撮影も増えたと思います。要するに苦勞していた撮影が簡単になったと言う事ですが、その分緊張感も希薄になったり、フィルム撮影時にはそのシチュエーションを覚えていたのが、デジタルになって無くなってしまった事がありますね。やはり撮影カット数が相当に増えた事によるものだと思います。



カラシヤの海辺朝景 イエメンソトラ島カラシヤ



ドラゴンツリー(竜血樹) イエメンソトラ島スカンド



ドラゴンツリー(竜血樹) イエメンソトラ島スカンド



アデニウム・オベスム・ソトラヌム イエメンソトラ島ホムヒル付近



ドラゴンツリー(竜血樹) イエメンソトラ島ホムヒル



ドラゴンツリー(竜血樹) イエメンソトラ島スカンド

Q. 今回の「世界植物記」について？

「世界植物記」の企画は7~8年前から持っていました。4~5年前に平凡社でこの企画が通り出版が決まりましたが、20年にも及ぶ作品をまとめた訳です。最初は600ページの本になってしまいました。流石に600ページの本は難しいので、「アフリカ・南アメリカ編」と「アジア・オセアニア・ヨーロッパ編」の2冊に分けようとなりましたが、それでもその時の本の価格は14,000円でした。「この本は売れるかも知れない」と平凡社の営業部門がプロの直感で言いだし、印刷部数が増え価格も6,800円になりました。

この本の最大の特長は日本人が誰も見たことのない植物が多く紹介されていることです。続編の「アジア・オセアニア・ヨーロッパ編」には日本の西表島の作品がありますが、皆さん「世界植物記」を宜しくお願いいたします。なお、同名の写真展を3月12日から18日まで銀座のキャンザロンで開催致しますので、こちらにも是非お運びください。

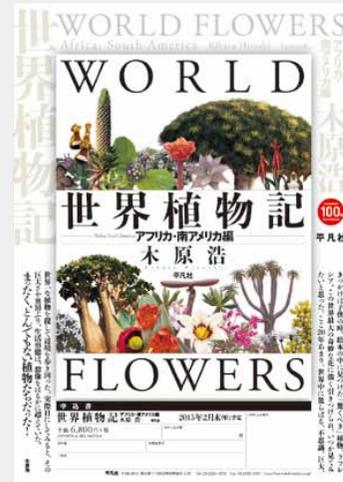


木原浩さんの写真人生全てがこの事務所にあります。
上左:デジタルカメラで撮影された作品はパソコンに向かい自ら現像処理。
上右:フィルムの作品はキャビネットで整理。
下:マミヤカメラクラブ事務局にも木原さんの書籍があります。写真、植物好きの方なら必ず目にしていますね。

絵本の中の「ラフレシア」にはじまり、山岳写真家・白川義貞氏、植物写真家・富成忠夫氏との出会い、そして編集者との出会い。「世界植物記」の出版は運命なのかもしれません。

きっかけは子供の時、絵本の中に見つけた「驚くべき」植物、ラフレシア。この世界最大の奇妙な花に強く引きつけられ、いつか見てみたいと思った。ここ20年あまり、世界中に散らばる、不思議、巨大、世界一な植物を探して辺境を歩き回った。実際目にしてみると、その巨大さや異形ぶり、生活形態は、想像をはるかに超えていた。まったく、とんでもない植物たちだった! ————— 木原 浩

書籍名 世界植物記 アフリカ・南アメリカ編
頁数 288ページ
体裁 菊倍判変形(226x303^{5/8})
発売日 2015年3月初旬
出版社 平凡社
価格 6,800円+税



各章トップでは、なぜこの植物を見に出かけたのか。その動機や旅のあらましについて触れました。

メインの科や属で種類の多いもの、メインではないが、取材の過程で出会ったさまざまな花たちの写真と学名を一気にならべました。

主な植物については、花や葉、実のアップ写真を用い、植物の特徴を視覚的に見られるようにしました。

お世話になった先生、多くのガイドの方々と繰り返し、植物の特徴を視覚的に見られるようにします。植物だけでなく、現地の人々の生活や風俗もご覧いただけます。

『山・水・花・光の一期一会をテーマに』

6年前に大判と中判の写真展を見に行き、その風景写真の美しさ、素晴らしさに魅了され写真を撮りました。

最初に手にしたカメラはデジタル一眼レフでしたが、その後、銀塩写真の奥深さに興味を持ち、マミヤ 646DF を始めマミヤ C330、リンホフマスターテニカまで購入してしまいました。

ライフワークとしては赤城山を中心として、四季折々の自然風景「山・水・花・光」の一期一会をテーマに撮影しております。今後は、光と陰を考慮したマクロの世界にも挑戦したいと思っています。

また、ポートレート撮影では、「その瞬間を心に響く思い出として残してあげたい」との想いを込めてシャッターを切ります。

写真を通して素晴らしい人達と沢山の出会いがありました。この絆を大切に、笑顔と優しさ・感謝の気持ちを忘れずに写真人生を歩んで行きたいと思っています。



群馬県赤城山 『霧に包まれて』 2014年6月25日



若林 美代子 (わかばやし みよこ)
群馬県伊勢崎市在住
平成26年9月写真スタジオ『フォトビート』のアシスタントとして勤務。風景撮影やポートレート撮影など多岐にわたり写真活動中。マミヤカメラクラブ会員、日本リンホフクラブ会員、写真倶楽部ベネチャ会員。



栃木県日光市 『霧の華』 2014年5月6日



長野県車山 『闇の霧』 2014年10月7日



長野県諏訪カル 『麓 秋』 2012年10月14日



群馬県桐生市 『山秋の流』 2014年11月25日



長野県上高地 『瞬 光』 2014年10月26日



群馬県桐生市 『水面に映る』 2014年11月24日



福島県五色沼 『秋 彩』 2012年10月21日



長野県諏訪市 『氷のオブジェ』 2012年2月2日

新写真雑誌「ライフスケープ」を発行した 風景写真出版社長・石川薫さんに聞く。



東京文京区の本郷通りと春日通りが交差する本郷三丁目交差点を巣鴨・大塚方面に数分歩くと、右側に受験生憧れの聖地、東京大学・赤門があります。この赤門の斜め右前のビルに(株)風景写真出版がオフィスを構えます。隔月刊『風景写真』で風景写真愛好家の絶大な支持を集める同社は、巷間、出版不況と言われる今、新たな写真雑誌『ライフスケープ』を世に出しました。今号では同社の代表取締役であり『風景写真』の編集長を務める石川薫さんを訪ね、会社、雑誌、さらには今後の展開までも迫ってみました。(木戸)



東京大学には10ヶ所以上の門があります。正門や弥生門、熊岡門等のどの門より一番有名なのが「赤門」です(写真左)。風景写真出版オフィスの在るサトービル入り口には写真の雑誌「隔月刊 風景写真」の看板がありますので置くに分かりやすい(写真右)。
石川 薫 (いしかわ かおる)
 株式会社 風景写真出版 代表取締役、風景写真編集長。
 株式会社 風景写真出版 代表取締役、風景写真編集長。興味は「旅行(出張?)」「仕事」。

マミヤカメラクラブ事務局のワイズクリエイティブも同じ東京大学の熊岡門前に在り、ある意味同じ本郷で町内会仲間と言う事になります。取材当日も約束の10分前に事務局を出れば間に合う位置関係なのです。
株式会社 風景写真出版
 〒113-0033
 東京都文京区本郷 5-28-1
 サトービル 3F
 03-3815-3605
<http://www.fukei-shashin.co.jp>

Q. 写真との出会いと独立の経緯は?

休日写真の撮りに出かけたことは数えるほどしかありません。仕事でも私が写真を撮ることはないですね。写真雑誌の編集に関わるようになったのは、31歳になって間もない頃に転職した(株)新日本企画という会社で配属されたのが、たまたま『風景写真』の編集部だったことから、それまでは印刷会社などに勤めていました。入社前に少しは風景写真のことを知っておこうと『風景写真』をはじめ関連した本を買ってきて読んだのですが、正直なところ何が面白いのかさっぱりわかりませんでした。ところがある写真家の写真集を見たとき、その認識が一気に変わったんです。これなら誰が見ても感動するし、面白い。その魅力をどうすればもっと広げられるかという思いが、当時も今も私の仕事の原点になっています。

新日本企画時代は、写真の分野で一流と呼ばれる人たちと直接に接して、写真以外のことも含めてさまざまなことを吸収できるのが、ただただ面白くて、夢中で働くうちに気がつけば編集長になっていました。

ところが郵政省関連の仕事を経営事業にしていた新日本企画が小泉改革のおおりに受けて突然、解散するという話になり、不況下にあった当時、中・高年の再就職は厳しい状況で、40歳を過ぎて仕事を見つけられるとも思えず、家族、親戚から出資金を集め、スタッフ、オフィス、什器備品、そして『風景写真』の商標権と在庫などをすべて合わせて会社を買収することにしました。2004年11月に(株)風景写真出版を発足させましたが、この時、利益の出る仕事は『風景写真』1本しかないという、なんとも心もとない船出でした。

Q. 風景写真出版、創立から10年を振り返って

編集長兼務の社長として、最初に手がけたのは『風景写真』のリニューアルでした。*『風景写真』が本来持っているクオリティーにふさわしいブランドイメージに再構築することをコンセプトに、あらたに実績のあるデザイナーに委託して、誌面に対する信頼感がビジュアルとして目に見えるものに刷新しました。その結果、誌面サイズを大きくすることになり、コストも上がりましたが、価格は据え置きました。

今考えても冷や汗が出るような全面的な刷新でしたが、結果は大好評で、副次的な効果としてはコンテストに集まる作品のレベルも向上したように思います。実はブランドイメージを再構築した目的は『風景写真』の販売も理由の一つではあったのですが、その次の事業展開を考えてのことでした。収益の大部分を『風景写真』1本に頼っているのは、ちょっと風が吹いただけで倒れてしまいます。次に手がけたのは自費出版サービスだったのですが、『風景写真』のクオリティーがビジュアルにも示されたことで、ブランドに対する信頼感が増した、好調なスタートを切ることができました。

また、新会社を発足させて間もない2005年春頃、富士フィルムから「銀塩写真の魅力風景写真によって伝えられないか」という依頼がありました。当時は急速なデジタルカメラの普及に、間もなくフィルムがなくなるという噂が広がっていました。そこで私たちがそれまで『風景写真』で培ったノウハウや写真家とのつながりを生かして企画したのが「美しい風景写真100人展」です。初めは一度きりの予定が、毎年各地の富士フィルムフォトサロンを巡回する人気の写真展となり、昨年暮れに10回目を迎えました。その実績をご評価いただいたのか、近年は富士フィルムの企画展やそれに関連するイベント開催のお手伝いもさせていただいており、今では『風景写真』、写真集の制作、出版と合わせて、写真展のプロデュースも弊社の事業の一つになっています。



Q. 新進写真家発掘の取り組みについて

『風景写真』は、新進の風景写真家を発掘、育成することにも力を注いでいます。その核となる取り組みが前田真三賞です。もともと1993年に「風景写真新人杯」としてスタートしたのですが、『風景写真』の創刊に関わった巨匠、前田真三氏が亡くなられたのを機に、「前田真三賞」と改称しました。30点組の組写真という非常に難しい課題を制して受賞した写真家の中から、これまで以上に上杉満生さん(故人)、川隅 功さん、辰野 清さん、米 美知子さんといった皆さんが各方面で活躍しておられ、プロ写真家への登竜門と呼ばれることもあります。

Q. 読者の変遷は?

『風景写真』の読者層は創刊当初から中・高年の男性が中心ですが、少しずつ若年層や女性読者が増えています。高齢者の読者も多い代わりに、高齢化が進むことで「いずれ読者がいなくなるのでは?」と心配されることもありますが、若い頃はスナップや鉄道写真を撮っていた人も、年を重ねることに自然や風景に対する理解や興味が高まり、風景写真に取り組むようになることが多いので、その懸念は当たらないと思います。

また、フィルムカメラの愛用者が多いことも『風景写真』読者の特徴です。コンテストで一番応募が多い単写真部門の応募作品には今も多数のフィルム作品が含まれます。

Q. 新雑誌「ライフスケープ」について

『ライフスケープ』は、いわゆるカメラ雑誌とは違い、写真の撮り方やカメラの新製品レポートなどの記事はほとんどありません。“自然を見つめる人の写真誌”をコンセプトに、写真家を中心とした自然と接する人の生き方、ライフスタイルにも焦点を当てた雑誌です。この本を作るきっかけとなったのは、2013年11月に開催された「生(ライフ)〜写真がとらえる野生〜」という写真展に関わったことでした。自分の中で動物写真やネイチャーフォトへの関心が高まり、折しも弊社創立10周年という節目の年でもあったことから、その記念事業として進めることにしました。この時代に写真の分野で新しい紙媒体を根付かせることができるのか、ということについて不安視する声も聞こえてきますが、実はこの企画は写真家たちから聞こえてくる「動物写真、ネイチャーフォト作品を発表できる新しい媒体がほしい」という声にこたえて企画されたものでもあります。かつて「アニマ」や「シンラ」といったネイチャー誌が全盛の頃に育ち、あるいは影響を受けてその後写真家になった人たちが、今では魅力的な写真家に成長してきて、そこに、大きな可能性を感じています。また、『ライフスケープ』の編集長は私ではなく、弊社の高橋佐智子が務めますが、写真家、制作スタッフを含め、社内外に新しい人材が活躍する場が生まれることも、中・長期的にみれば実は大きなメリットがあると確信しています。

Q. 今後の夢は?

写真の分野はさらに成熟する余地が残されています。たとえば写真集を作ったり、写真展を開催するといったことを通じて、もっと自分の人生を豊かにするライフワークとなるはずですが、そうするための意識を広め、環境を作ることが私の夢というよりは務めだと思っています。『ライフスケープ』の創刊はその大きな一歩でもあるのです。

「ライフスケープ」絶賛発売中!

野生動物から自然を相手にする人の生き方で、地球の上に生きるすべての生命の営み、心にふれる写真と文章で観る新しい視点の自然写真誌。

第1号では動物写真家・前川真行の作品と、その人となりやクローアスナップ、ほか、今森光彦、中村征夫、佐藤岳彦、内山節、坂本大三郎、メロメロメロなど、自然写真家をはじめとしたナチュラリストが多数登場。

書種名: ライフスケープ
 種類: 写真雑誌(風景写真1月号臨時増刊)
 頁数: 164ページ
 体裁: 25.7×2×18.2cm
 発売日: 2015/1/20
 出版社: 風景写真出版
 価格: 1,389円(税別)

ご注文は(株)風景写真出版 03-3815-3605

写真をキーワードに生の声を聞く。 この人を訪ねて ⑤



今までに出版された風景写真ストック欄の前で、本誌の旧刊型と新刊型の違いを実際に説明される石川薫さん。この時は編集長の顔です。



フロアオフィスの照明は、効率的に机や棚が配置され働きやすそうです。注目、天井から下がった丸い蛍光灯の照明。



開放的な棚には、今まで発行された風景写真本誌がずらりと展示されています。ライフスケープもここに並ぶのでしょうか?



笑顔でカメラに収まってくれた、創業メンバーの船越真穂さんは石川薫さんの右腕とも言える存在です。



昨年11月にプレスセンタービル内で開催された、風景写真出版創立10周年パーティには沢山の人が集まりました。

RAW 現像ソフトウェア Capture One Pro 8 Vol.1

フェーズワン ジャパン プロダクトマネージャー 下田 貴之

RAW 現像ソフトウェア Capture One Pro 8

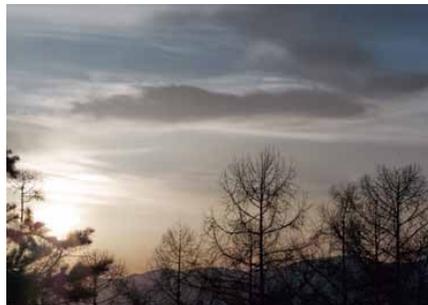
Capture One は 10 年以上にわたり世界中のプロフェッショナルフォトグラファーや写真愛好家に支持され続けてきた RAW 現像ソフトウェアです。最新の Capture One Pro 8 は 300 種類以上のカメラをサポートし、このソフトウェア 1 つで様々なメーカーの RAW 現像ができます。ソフトウェアは直感的で使いやすいデザインになっており、ほとんどの機能はスライダーで調整します。簡単に操作でき、調整がすぐに写真に反映されるので、高いスキルがなくても今までの写真の経験さえあればノイズのない高精度な色、細部にわたるディテールをきちんと表現することができます。前回の「ローファイル現像のススメ」でも説明がありましたが、ツールタブを左から右に各ツールを調整し現像タブで現像すると Jpeg、Tiff が完成します。とてもシンプルな操作なので、まずは Capture One を使ってみてください。

今回は RAW 現像で特に重要な調整をご紹介します。

1 つ目は、ホワイトバランスです。

ホワイトバランスによって色が変わるので、とても重要な設定になります。Tiff、Jpeg の場合はカメラで設定しているホワイトバランスが反映され変更することができませんが、RAW データの場合、撮影後にホワイトバランスを調整することができます。撮影シーン、イメージに合わせて調整が可能なので、オートホワイトバランスに任せるだけでなく、状況に合わせてホワイトバランスを調整し最適に写真に仕上げるすることができます。

調整方法はシンプルでホワイトバランス機能のプリセットから光源に合わせて選ぶ、またはスポイトで写真の中から適切なホワイトバランスを取ることができます。またホワイトバランス機能の色温度と色合いスライダーで微調整できるので、よりイメージに近いバランスに調整することができます。



オリジナル



ホワイトバランスを調整



2 つ目は、階調調整です。

階調の調整も Tiff、Jpeg ではコントロール幅が小さく、必要な階調を表現するのはとても難しいです。しかし、Capture One のハイダイナミックレンジ機能を使えば RAW に記録されている情報を最大限生かし、ハイライトからシャドウの階調を引き出すことができます。ハイライト、シャドウの階調を約 2 段階調整が可能なので、露光調整が不十分だったイメージでもディテールを自然に表現できます。



オリジナル



ハイダイナミックレンジを調整

Capture One は非破壊編集になっているので、何度やり直しても画像の劣化はありません。調整の順番もホワイトバランスやハイダイナミックレンジ以外の調整を先に行っても全く問題ありません。しかし、コントラストや明るさを最初から調整するよりも、この 2 つの調整を行い、写真を整えた後にレベル、カーブ、他の機能などを使っていただくと効率良く画像調整ができます。

Capture One Pro 8 ダウンロード：

<http://www.phaseone.com/ja-JP/Downloads/Materials/Download-Capture-One-8.aspx>

雨の日にこそ写真を撮ろう！

撮影が消極的になってしまう雨の日ですが、木々や森を撮影するとしっとりとした素晴らしい作品ができます。そんな時、カメラ機材を濡らさずに撮影できるのが、ワンタッチで三脚に取り付けられるワイドオリジナルの「かさお君・ワイド」です。フレキシブルクランプを三脚に取り付け、付属の傘をセットします。雨や雪の中でのカメラ操作、レンズ、フィルム交換を快適にしてくれます。晴天時にはハレギレとしても使用できます。

フレキシブルアームの先にプレ止め装置（別売）を付けると、望遠レンズ使用時のカメラブレも防ぐことができます。本体内にスプリングを内蔵していますので、スプリング部分を調整しながらレンズをサポートするだけで、適度にテンションが掛かり安定します。

かさお君・ワイド ¥13,500 +税
かさお君・ワイド用プレ止め ¥5,600 +税





建築確認のいらない10平米の ミニスタジオを建ててみよう。

小屋を建ててみたい。
それも念願の自分だけのミニスタジオだったら最高だ。
好みの被写体を撮影台にセットしシャッターを切る。
そこには至福の時間が静かに流れます・・・

子供の頃の夢のひとつに「自分で家を建ててみたい!」というのがありました。毎日仕事に追われる状態で、結構たがれるのですが、敢えて疲れても「非日常を楽しもう」との思いから、休日限定で「家を建てよう!」と決意しました。ただ、家となるとえらく大きくなるので、建築確認も要らない小さな家イコール小屋を建ててみよう一念奮起です。丁度、駐車場の下が、広いけれど植木があるだけのデッドスペースになってると気付いたのが小屋建築のスタートでした。そして、どうせ建てるならばミニスタジオにして、楽しい撮影が出来たらと思い、早速ハンドメイドハウス建築の専門書と電動ノコギリ、電動ドライバー等を入手し、夢のミニスタジオ建築に着手です。それでは建築の実際をご覧ください。(木戸)



①駐車場のスペースに建築確認の要らない10平米の小屋を建てるスペースを発見です。そこには種類の分からない木々があり、先ずこれを伐採し整地を行います。②小屋の配置確認のために基石をセットしてみました。③小屋の大きさを組み上げた2x6材をセットです。④4x4材を基石にセットし基礎を完成させていきます。⑤次は、基礎枠を補強し、15mm厚のベニア(1820x900mm)3枚を用意して基礎枠の上に釘打ちです。ちょっとしたステージの出来上がりです。⑥2x4材を使って4面ある壁枠を作ります。これが結構重いのです。



⑦枠に合わせ15mm厚のベニアを電動ドライバーと木ネジで止めて張り付けます。この時に作業スペースの無さから、駐車場下に建て始めた事を後悔します。⑧3面にベニア板の張り付け、右側面には窓枠を作りましたので採光もOK。⑨次は天井と屋根ですがここが一番大変な作業です。もともと雨の落ちない空間だと判断し、屋根と天井を2x4材を使い一体化する事を決断です。⑩4面の壁に透湿防水シートを巻き付け、タッカーという機械で打ち付けます。⑪ドア枠と窓枠以外の壁面に透湿防水シート施工です。⑫窓枠の杉材を外壁に打ち付け開始です。



⑬ここからひたすら外壁用杉材を電動ノコギリで切っては電動ドライバーと木ネジでの打ち付け作業が続きます。⑭部屋の中に電気を通すための電源ボックスもこの時に取り付けます。⑮窓枠に沿っても杉材を打ち付けます。外壁杉材は少しずつ重ねて打ち付けていきます。⑯やったー!外壁杉材施工の完成です。結構それらしくなってきた感じがします。⑰地面から床までの高さがあるので2段のステップ板を作りました。⑱次は、加工の難しい窓枠の製作ですが、窓はガラスでなく透明アクリル材を用意しました。



⑲透明アクリル板の入った窓枠が完成です。蝶番を上部に付けてレトロ調にしました。これで部屋の中も明るくなりますね。⑳丁度横殴りの雨が降ってきましたが、部屋の中には雨は吹き込みませんでした。㉑窓より大物で重いドアの製作です。㉒アクリル板が入る溝は電動ノコギリを何回か走らせて作りますがこれがまた大変な作業です。㉓見てください。結構立派なドアになったと思いませんか。ただ、大型の蝶番の取り付けが微妙で、調整が悪いとピタッとドアが閉まりません。㉔もちろん鍵の付いたドアノブも装着しますが穴開けが難儀でした。



㉕ドアノブを付けることが出来ましたが穴の周りに傷が付き補修材が必要でした。㉖見事鍵の付いたドアが完成。これで鍵を掛ける事が出来ますので防犯上も安心。㉗床材張り付けとなりますが、余った透湿防水シートを貼った上に床材を並べ打ち付けていきます。㉘床の完成です。木目がキレイで飽きの来ない床になるでしょう。㉙この頃になると夕方の部屋の中の作業が暗さで辛くなってきました。室内に電気とコンセントの配線を行います。㉚室内配線と外部配線を電源ボックスの中で行います。(後で分かりましたが電気技師の工事であればいいかなそうです)



㉛やりました!文明開化の灯りです。思わずバンザイと叫んでしまいます。㉜次は内壁の工事に掛かればならぬのですが、暑さや寒さの問題を解決しようと断熱材を大量に買い込み施工です。㉝そして、その上から内壁材を打ち付けますが予算の関係で外壁材と同じ安い杉材をチョイスしました。㉞一面一面、断熱材と内壁材が施工されると部屋らしくなって来ます。㉟窓枠の下には長めのカウンターを2x6材で作って見ました。ここでコーヒーが飲めたら最高です。㊱照明が点いたのですからもちろん電源スイッチもあります。



㊲後で追加することが難しいコンセントはこの部屋の大きさにして3カ所用意しました。㊳内装工事も終了に近づいた部屋の中から、ドアと窓に向けて記念の1カットです。㊴外壁には透明防水塗料を塗り込んで雨対策もバッチリです。㊵小屋を下から見上げたカットですが傾斜地のため結構高さを感じます。作業には4mの脚立が必要でした。㊶もちろん、傾斜地のため基礎材には念を入れて、タテ、ヨコ、ナメと補強して行きます。㊷ドアを開けた場所からの1カットですが、木の香りが漂い何とも言えぬ感じがします。

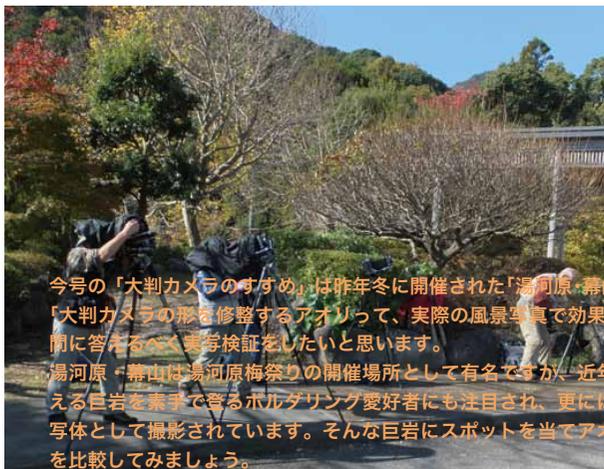


㊸2x4材が余ったので厚すぎるとは思いましたが、建物補強の意味もあり棚を作って見ました。ここにレンズや露出計、アクセサリを置きます。㊹やはり木に掛りたいので椅子も木製です。4脚用意しました。㊺いいよ撮影機材の搬入です。大判ビューカメラ、1200Wストロボ、撮影台等をセットしました。㊻カウンターの上にはノートパソコンも置いてインターネット環境も完備です。㊼遊び心で「Y's Studio & Office」の表札を作って見ました。㊽外から見えた手作りのミニスタジオです。この光景を眺めている時が至福の時かもしれませんね。



㊾ストロボ用ブームも搬入して本格的な撮影も可能になりました。㊿実際の撮影光景ですが小さなスタジオでストロボ光の反射をどの様にカットするかがポイントです。座っていながら手を伸ばせば何でも届くのが良いですね。㊿頭木を並べアオリの作例写真の完成です。

《あとがき》夢のミニスタジオが完成致しましたが、質問が一番多いのが、製作期間と費用はどの位掛かったかと言う事でした。製作期間は夏休みを含んだ4ヶ月ほどの日曜大工で、費用は電動ノコギリ、ドライバー等と木材、塗料で20万円を切る金額です。ただし、写真の様にホームセンターから自動車を借り、自分で木材運搬もしました。設計は基本的に、2x4、4x4、4x6木材を使用しているだけなので、イラストレーターというソフトを使い、積み木のように形を組み合わせただけです。しかし、完成後の充実感は半端なく、モノに対する考え方も変化したと思うほどでした。皆さんも如何ですか?



今号の「大判カメラのすすめ」は昨年冬に開催された「湯河原・幕山撮影会」の時に多かった、「大判カメラの形を修整するアオリって、実際の風景写真で効果を発揮するの?」と言う疑問に答えるべく裏写検証をしたいと思います。
湯河原・幕山は湯河原梅祭りの開催場所として有名ですが、近年は、山にへばり付きそびえる巨岩を素手で登るボルダリング愛好者にも注目され、更にはカメラマンにも恰好の被写体として撮影されています。そんな巨岩にスポットを当てアオリ使用前と使用後の写真を比較してみましょう。

大判カメラのすすめ その6

大判カメラのバックアオリは形の修整アオリです。

おさらいになりますが、アオリには大きく分けて2つのアオリがあります。ひとつは近距離、中距離、遠距離全てにピントを合わせるパンフォーカスアオリで「ピント面のコントロールアオリ」と言います。そして、もうひとつが、建築物の高さを出したり、太った人を痩せさせるなどが可能な「形のコントロールアオリ」です。

よく大判カメラユーザーと話をしていると、「手前の花、中景の森、遠景の山全てにピントを合わせるパンフォーカスのアオリは必要だけど、建築写真じゃあるまいし風景写真では形の修整アオリなんて必要ないよ」と言います。下の作例写真をご覧ください。それぞれ左がアオリ無しの撮影で、右が形のコントロールアオリを使用して撮影したものです。どちらの被写体にも言えることなのですが建築写真の場合はアオリ無しで撮影すると本来真っ直ぐでなければならぬ垂直線が天に向かって斜めになっていることが分かります。このラインをアオリで真っ直ぐにすればより高さが整った写真になるわけです。

ところが風景写真撮影では垂直線の整った四角の山などなるはずもなく、更には上から下まで同じ幅で落ちる滝もありません。巨木にしても上と下の幹の太さは違います。ですからアオリを掛けようが掛けまいが分からないのが事実だと思います。ただ、アオリ無しとアオリ有りの写真を2枚撮ったという人も聞いたことがありません。

だったらこの湯河原・幕山の巨岩を主役に実際に写し比べてその効果のほどを見てみたいと思います。



①東京大学・安田講堂を撮影しようとして大判カメラを構えましたが講堂全体が構図出来ないためにカメラを上に向けてアオリを掛けずにそのまま撮影しました。②講堂の垂直線が斜めのためバックアオリを使い、垂直線を修整し、更にフロントアオリでピント面も修整して撮影しました。

③東京大学病院の建物上部にあるレリーフに注目して大判カメラをセットして撮影しました。それほど高い建物では無いのでアオリを掛けませんでしたが写真では垂直線は斜めになり安定感の悪い写真となりました。④バックアオリで建物垂直線を修整して撮影しました。より安定感のある写真が完成です。この高さでもアオリを掛けた校歌が如実に出ます。

幕山の巨岩を実際に撮影してみよう。

それでは、実際に幕山の巨岩が見える場所に、大判カメラをヨコ位置画面でセットしてみました。今回はアオリの検証ですから、画面一杯に巨岩を配し構図をとり最初のシャッターを切りました。次に、いよいよアオリを掛けますが、やはり自然の巨岩ですね。垂直基準になるラインがありません。そこで、カメラバック部を先に垂直にして、更にカメラフロント部も垂直にしました。これで、フィルム面、レンズ面、被写体面が「川の字」のようになって三者が平行関係になった訳です。ここで、最終的に構図の調整とピントを確認してシャッターを切りました。アオリ無しの写真が②ですが、垂直のラインが無いため、そんなに先ずばりの写真にはなっていないので、1枚だけならこれでOKかもしれませんね。そして、⑥が形のコントロールアオリを使った写真です。如何ですか?②に較べると高さが強調され、巨岩がより整った作品になったと思いませんか?これが風景写真の形のコントロールアオリなのです。確かにアオリ無しでもそれなりの写真が撮れますが、アオリを効かせることで、よりよい写真が撮影出来るのです。ある意味料理のスパイスの様な存在かも知れませんが、折角アオリ機構の付いた大判カメラをお持ちならば是非チャレンジしてください。



③大判カメラを幕山の巨岩に向けセットアップしました。ただし高い被写体を撮影するにはカメラポジションは極力高く構えます。カメラを上向きに構えたので②イラストのフィルム面(緑点線)とレンズ面(紺点線)とも斜めになっています。

④幕山の巨岩を構図した後に、フィルム面とレンズ面を垂直にして、最後に構図の微調整と最終のピント合わせを行います。⑤イラストのフィルム面(緑点線)とレンズ面(紺点線)とも垂直になりました。

緊急告知 事前登録受付(TEL: 03-5689-2776)

航空写真家・芥川善行氏による スペシャルセミナー開催決定。

航空写真撮影の第一人者・芥川善行氏のスペシャルセミナーが5月16日(土)に開催決定致しました。詳細に関しましてはH.P.等で後日発表致しますが、興味のある方は事前登録をお申し込みください。

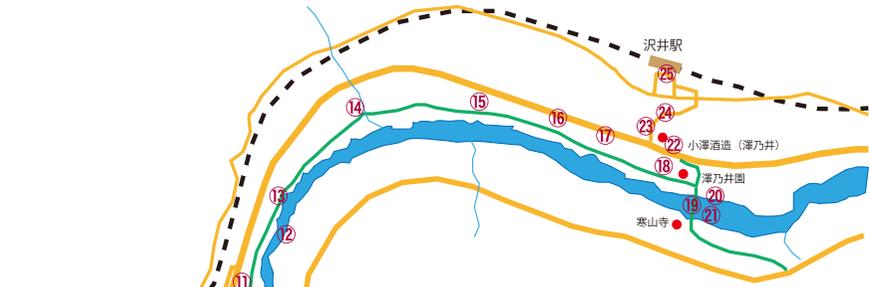
芥川善行(あくたがよしゆき)
1939年松山市生まれ。航空写真家の第一人者。海外向政府刊行月刊誌、カメラ雑誌や航空会社の機関誌、カレンダ―等に写真を提供。NHK、民放テレビ等の特集番組放映。インダストリアルデザイナーとしても活躍しドイツで開催されるフォトキナに航空写真用カメラ「エアロアクタス」を連続出版。



手軽に出掛ける 奥多摩溪谷・御嶽～沢井は 風景、スナップ写真の宝庫です。

《撮影地・カメラ散策会紹介》

青梅線・御嶽駅で下車して、駅前の御嶽橋を渡って御岳渓谷まで階段を下ります。下りた所に在る日本画家・川合玉堂の作品を収蔵している玉堂美術館で暫し芸術鑑賞をし、溪流沿いの遊歩道を歩き御嶽駅の一つ手前の沢井駅を目指します。溪流をスイスイ移動するカヌーや岩登りの光景が目飛び込んできて、思わずシャッターを切り続けてしまいます。整備された遊歩道沿いには洒落たカフェや蕎麦屋などもあります。メインの被写体は溪流と岩になりそうですが、「撮影」と大上段に構えるのではなく、「カメラ散歩」として気軽に渓谷を散策の方が合っているかも知れません。沢井地区には「清酒・澤乃井」で有名な小澤酒造があり酒造見学（要予約）もできます。本格的に飲みたいという方には、絞りのたてのお酒が飲める「澤乃井園」もありますので、カメラ散策後の楽しみにしても良いかも知れません。



《電車で行く御嶽～沢井カメラ散策会モデルケース》
JR 御嶽駅には東京駅から中央線快速を利用して青梅駅まで行って、青梅線に乗り換えること 2 時間弱で行く事ができます。車窓から眺める都心～郊外～山間部の変化も楽しめます。また、自動車で行く場合は、玉堂美術館の近くには大きな駐車場がありますので、こちらを利用される方が良いでしょう。

【JR線利用の場合】	
東京駅発 中央・青梅線快速	8時05分
青梅駅着	9時28分
青梅駅発 青梅線・奥多摩行	9時32分
御嶽駅着	9時47分



①JR御嶽駅は道路より一段高くなったところに位置し、関東の駅百選に選ばれた駅舎は思わずシャッターを切ってしまうほどレトロ感溢れます。近くにコンビニも在りお弁当を買ってから散策スタートにしても良いでしょう。②御嶽駅前在る御岳橋下の溪流は、美しく透き通り見飽きることがありません。③カヌーの聖地とも言われる御岳渓谷には、色とりどりのカヌーが集結しますのでスナップ撮影に最適です。④御嶽橋を渡り、いよいよ渓谷に続く道を下りて行きます。⑤日本画の巨匠・川合玉堂の作品や書齋を展示している玉堂美術館に到着です。



①近年、整備された遊歩道はとて歩きやすくなりました。運動靴でも十分に歩けます。②光線によって光り輝く溪流の写真を撮影することもできます。また巨岩には今流行のボルダリング(岩登り)をする人も居ますので、スナップ撮影もできます。③以前は無かったとおもいますが、カフェや甘味処が遊歩道沿いにあります。散策途中の休憩に利用できます。④途中で、「月の沙漠」などの作者・佐々木すぐるの「お山の杉の子」の歌碑を見つけました。⑤遊歩道を歩いてると時間の流れがゆっくり感じられます。

⑥沢井に近づくにつれ、民家の軒先を遊歩道が通り渓谷に住む人達の生活を感じられます。⑦ここまで来ると、流れが大分穏やかになって来たと感じるようになります。⑧お待ちどうぞです。生酒や豆腐料理、食事が堪能できる小澤酒造直営の澤乃井園に到着しました。ここではお酒はもちろん、地産のお土産も購入できます。手頃な値段で色々なお酒を楽しめるきき酒処もあります。⑨澤乃井園の前に掛かる橋から澤乃井園全貌をスナップしました。⑩この橋を渡ればひっそりと佇む寒山寺があります。秩父多摩甲斐国立公園園内の渓谷美といわれ、四季を通

⑪今までの流れが嘘のように川幅が広くなり大きな瀧みが出ています。⑫清酒・澤乃井で馴染みの小澤酒造の建物です。1日に何回か酒蔵見学ツアー(要予約)を行っていますのでこちらも注目ですね。⑬小澤酒造建物裏には酒タンクでしょうか。⑭小澤酒造からJR沢井駅までは結構な登り坂です。坂に沿って小澤酒造の板壁が続き、ここにモデルを配して撮影したら絵になるのではと思います。⑮お疲れ様でした。終点で解散場所のJR沢井駅に到着です。

「途中下車の旅」 — 青梅駅編 —

昭和レトロで町興しをしているのが青梅駅周辺です。駅構内には懐かし昭和映画の看板がずらりと並び、赤塚不二夫のパカボンのパパの像まであります。青梅鉄道園、鉄道博物館のある青梅駅らしく、「鉄道員」「終着駅」「ぼっばや(鉄道員)」と鉄道・駅に関連する看板が多い様です。青梅駅を出ても昭和懐古イメージは続き、映画看板を配したバス停や電話ボックスを認める事ができます。その他にも、「赤塚不二夫記念館」「昭和レトロ博物館」「昭和幻燈館」などあり、途中下車してお楽しみください。

「御岳渓谷・御嶽～沢井カメラ散策会」 撮影指導・石田研二

霊山と崇められる御岳山、武蔵御嶽神社がある、JR御嶽駅から沢井駅あたりの多摩川沿いの地域は、御岳渓谷として秩父多摩甲斐国立公園園内の美しさを誇ります。多摩川と青梅街道にはさまれる形で整備された遊歩道には、喫茶店やギャラリーがあり、ハイキングをしたり、カヌー、ボルダリングに興じる人たちもいます。

- 開催日 5月23日(土)
- 撮影地 御嶽～沢井間遊歩道。
- 集合 JR青梅線・御嶽駅 10時
- 講師 石田研二(日本写真家協会・写真学校講師)
- 参加費 1000円(税込)※撮影指導料
- お申込 必ず事前にお申し込みください。
- 交通 現地集合・解散となります。
- 備考 ワイズ大中判写真の会との共催です。

石田研二(いしだけんじ)
京都府出身。大阪芸術大学デザイン学科卒業。写真家の野町和嘉氏に師事。その後、フリーとなり個展他、グループ展に多数参加し活躍する。日本写真家協会会員、フォトボランティア JAPAN 会員、日本写真芸術専門学校講師、東洋美術学校講師。

編集後記 今号の特集の「ミニスタジオを建てよう」は如何でしたか？本来は別の特別企画を紹介する予定でしたが、残念ながら企画成立が会報編集に間に合わず急遽組み込んだ次第です。因みに、このミニスタジオ建築は 2013 年の夏に私が実際に体験した事なのです。駐車場下のテッドスペースに無理矢理建てた小屋ですから、スペースが狭く作業は困難でしたが何とか完成に漕ぎ着けました。建築体験は物事を考える上にも変化があったと感じます。貴重な体験でしたが、満足度に於いては、あおしてあげ良かった等の反省点多々あります。仕事をリタイアしたら今度は建築確認をとって、もう少し広い場所にもう少し大きい小屋ではなく家を建ててみたいと思います。そして、その時には電動ドライバーではなく充電式のインパクトドライバーを買おうと思っています。

事務局 木戸嘉一